虐待の背景考える

NPOが集会 プロセス知り対策に

痛ましい児童虐待死事件が相次ぐ中、虐待防止に向け何ができるのか考える集会が1日、大阪市中央区の大阪歴史博物館講堂であった。NPO関西こども文化協会が主催した。

「虐待の背景に潜んでいたもの―その時、身近なおとなたちができること―」をテーマにしたパネルディスカッションには、虐待死事件を取材したルポライターの杉山春さん、虐待事件を担当したことのある弁護士の峯本耕治さんが登壇し、同協会理事長で大阪千代田短期大学学長の松浦善満さんがコーディネーターを務めた。

松浦さんは「虐待が起きるプロセスが分かると、対策につながる」と語り、虐待してしまう当事者の社会的孤立と支援を拒絶する問題などを投げかけた。

峯本さんは虐待死亡事件について「保護者自身の育った環境や抱える課題、子育て過程でのしんどさが重なり、自尊感情の低下で孤立してしまう。その結果、完全に孤立して約1カ月で事件が起きている」と自ら担当した事件の経験も踏まえて指摘。このプロセスで防止につながるところがあるはずとし、自治体が作成している虐待チェックリストなどを活用した外部からの支援の必要性を訴えた。

杉山さんは「格差社会で、（生きる力の弱い人の置かれた状況を社会が）知らないということが、この国のひずみであり、虐待が起きる背景」と指摘。「（虐待やDVの）連鎖というよりも、制度や仕組みなど政治の問題も大きい」と語った。【山本夏美代】

パネルディスカッションで左から、コーディネーター役の松浦善満さん、杉浦春さん、峯本耕治さん＝大阪市中央区大手前4の大阪歴史博物館で

毎日新聞　2019年6月19日（水）朝刊